

環境アセスメント学会制度研究会部会定例会・グリーンインフラ研究会
第1回意見交換会の概要

第1回の意見交換で出た主な意見

- 土地利用計画にアセスを利用しながらグリーンインフラを推進していくと良いように思われる。広域行政体がアセスを利用しながらグリーンインフラを進めていければ良いのではないかと。
- アセスの要素技術をグリーンインフラに使うという方向性も考えられるが、逆も同じで、アセスにグリーンインフラの視点を取り込み、もっと統合的な観点から行う必要がある。アセス実施地域において、地域の将来ビジョンを踏まえてアセスで評価していく必要がある。
- グリーンインフラは概念として分かりやすい。成果の評価をどうするかが課題。ベルリンの例のように、ライフサイクルコストを計算に加えただけでも従来案を上回ることもあるため、生態系の多面的機能を評価に加えれば従来案より評価が高くなる可能性は高い。
- 技術指針レベルで多面的機能を組み込んでいくことは考えられる。また、代償において、開発者は負の影響をもたらした分だけお金を払い、そのお金を利用して自治体や NGO などが保全活動などを行うといった仕組み（In-Lieu-Fee）も海外では数多く事例があり、日本への適用も考えられる。その場合はグリーンインフラの推進にも利用できるし、保全活動を行う主体が従来の開発者より意欲が高いためアセスで創出したビオトープが数年後に放棄されるといった事態も防ぐことができる。
- 国レベルでの制度の改正は難しいかもしれないが、自治体レベルでは進められるはずであり、意欲的な自治体からまず導入を図るという方向性は考えられる。